

2025年1月31日

2024年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

「在宅看護の視点」とは何かの探求
－研究論文と地域・在宅看護論の教科書を用いた文献検討－

Exploring the Concept of Home Care Nursing: A Literature Review of
Research Articles and Textbooks on Community and Home Care Nursing

23MN022

永野 沙和子

要旨

【目的】本課題研究の目的は、「在宅看護の視点」とは何かを臨床から見た視点、教育から見た視点の双方から知ることである。

【方法】2024年度に、地域・在宅看護論を扱う概論及び各論というタイトルの最新版の教科書9冊、訪問看護を始める看護師が学習に用いる教科書2冊の計11冊を分析対象とした。教科書から目次を抽出し、抽出した目次を類似の内容にまとめながら質的分析を行った。

【結果】地域・在宅看護論の分野で用いている教科書の目次を抽出し、類似の内容をまとめた結果、21個のカテゴリーに分けられた。カテゴリーは6つに大別された。1つ目は、地域についてまとめた【日本の保健医療】【地域と暮らしの概論】【地域共生社会に向けた地域包括ケアシステムと看護】【新しい看護システムの創造】であった。2つ目は、地域の看護の基本となる【人々の変化と移行を支える看護】【地域・在宅看護概論】【在宅看護概論】【訪問看護の方法】【看護における家族の捉え方と支援】【地域の人々の暮らしを支える多機関・多職種連携・協働】【支援者として外せない考え】【暮らしの場でのコミュニケーション】【地域で暮らす人々を支援する過程の考え方と方法】【地域で暮らす人々を支える看護の質】であった。3つ目は、各論にあたる【地域で行われている支援の具体例】【日々の生活を支える支援】【療養生活を支える医療的支援】であった。4つ目は、地域で暮らす人々を支えるにあたって関わりの深い制度や社会資源を【地域に暮らす人々を支える医療・福祉に関する制度と社会資源】、暮らしの中に含まれる様々なリスクを【地域での暮らしに潜むリスクへの対応と対策】であった。5つ目は、諸外国のことをまとめた【外国の在宅医療・在宅看護】であり、6つ目は、ヒトの生物学的な進化と文化的進化が書かれた【自然界における人間の存在】であった。21個のカテゴリーの中でコアカテゴリーとなるのは、【人々の変化と移行を支える看護】であった。

【結論】「在宅看護の視点」とは、「移行」に焦点を当てて支援を考えることであると分かった。そして、この「在宅看護の視点」は、地域・在宅看護論の分野に限らず、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の対象者も当てはまり、訪問看護師だけでなく全ての看護師が支援者として身につけるものであった。

目次

第1章 序論.....	1
I. 研究背景	1
II. 研究目的	2
III. 研究目標	2
IV. 研究意義	2
第2章 文献検討.....	3
I. 世の中の動きと看護基礎教育における在宅看護論および地域・在宅看護論について.....	3
II. 研究から見た「在宅看護の視点」についての知見	7
III. 文献検討のまとめ	15
第3章 方法.....	16
I. 研究デザイン	16
II. 目的	16
III. 文献選択	16
IV. 分析方法	16
V. 倫理的配慮.....	16
第4章 結果.....	17
I. 文献の概要.....	17
II. 教科書の目次をカテゴリー分けした結果	18
第5章 考察.....	34
I. 地域・在宅看護論の分野に関わる教科書から得られた知見.....	34
II. 看護教育と病棟看護師の実践の場との乖離.....	35

Ⅲ. 看護基礎教育と実践との架け橋の現状.....	36
Ⅳ. 「移行」を軸とした教育	36
Ⅴ. 課題と今後展望.....	38
第6章 結論.....	39
引用文献.....	40
図表目次.....	46
表1-1 文献一覧	46
表1-2 文献一覧	47
表1-3 文献一覧	48
表1-4 文献一覧	49
表1-5 文献一覧	50
表2-1 「在宅の視点のある病棟看護の実践に対する自己評価尺度（山岸ら， 2015）」を用いた文献一覧	51
表2-2 「在宅の視点のある病棟看護の実践に対する自己評価尺度（山岸ら， 2015）」を用いた文献一覧	52
表3 地域・在宅看護論の領域で用いられている教科書一覧	53
表4-1 教科書の目次から抽出したカテゴリー/サブカテゴリー	54
表4-2 教科書の目次から抽出したカテゴリー/サブカテゴリー	55
謝辞	56
資料1	57